

令和4年度徳島県立総合看護学校 自己点検・自己評価結果報告書

1 自己点検・自己評価の経緯

本校は、学校教育法上の専修学校であり、かつ、厚生労働省の指定する看護師等養成所である。

このため、学校教育法・看護師等養成所の運営に関する指導要領等により、自己点検・自己評価の実施及びその結果の公表が義務化されている。

本校では、国の「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会報告書」（以下「検討会報告書」という。）に基づき、3年ごとに実施しており、前回（令和元年度）と同様に全職員が、9つのカテゴリーにより自己評価に取り組んだ。

2 目的

本校の教育水準の維持・向上を図ることを目的とする。

3 評価の方法

「検討会報告書」の評価項目に沿いデータと照らし合わせ、「3. 当てはまる」、「2. やや当てはまる」、「1. 当てはまらない」を評価基準とし、項目ごとに判断根拠・課題を示した上で評価点をそれぞれの番号数字として評価した。

4 評価結果の概要

() の数値は令和元年度

カテゴリー 【項目数】	主な項目（要約）	平均数値
I 教育理念 ・教育目的 【11】	<ul style="list-style-type: none">・教育理念、目的は養成所の教育上の特徴を示している・教育理念、目的は学生の学習の指針になっている・看護学、学生観は教師の教育活動の指針となっている	2.83 (2.77)
II 教育目標 【7】	<ul style="list-style-type: none">・教育目標は、教育理念・目的と一貫性がある・教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している・卒業後の継続教育の考え方を示している	2.82 (2.79)
III 教育課程 経営 【31】	<ul style="list-style-type: none">・教職員は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。・単位認定の基準、方法は妥当である・実習施設は、教育理念・目標を理解している	2.69 (2.52)

IV 教授・学 習・評価課程 【17】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容（講義・演習等）は内容に応じ選択している ・評価結果に基づいて、授業を改善している ・単位認定の評価は、公平性が保たれている 	2.70 (2.62)
V 経営 ・管理課程 【36】	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定システムが明確になっている ・財政基盤を確保することの考え方が明確である ・自己点検・自己評価システム体制を整え運用している 	2.68 (2.60)
VI 入学 【2】	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、目的に沿った入学者選抜の考え方がある ・入学者状況、推移について入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している 	2.61 (2.50)
VII 卒業・ 就業・進学 【8】	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時の就業・進学状況を分析している ・就業先での評価を把握し、問題を明確にしている ・卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している 	2.62 (2.57)
VIII 地域社会 ・国際交流 【8】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献を組織的に行っている ・地域資源を養成所の教育活動に取り入れている ・海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制がある 	2.41 (2.25)
IX 研究 【3】	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の研究活動を保障している ・教員の研究活動を助言、検討する体制を整えている ・教員相互で支援し合う文化的素地がある 	2.46 (2.04)

5 取組・改善状況と課題

I 教育理念・教育目的

II 教育目標

教育理念・教育目的の評価項目（11項目）の平均点は【2.83】であり、令和元年度【2.77】から、若干上昇している。

教育目標の評価項目（7項目）の平均点は【2.82】であり、令和元年度【2.79】から、若干上昇している。

これは、卒業生の就職先への訪問調査等により、毎年、施設側の就労状況の評価を把握して蓄積したデータや国のカリキュラム改正の動きを学生の指導に生かすようにしていることを反映していると考えられる。

今後の課題・改善

- 1 今後も、引き続き、蓄積した訪問調査等のデータの分析を行うとともに、国のカリキュラム改正の動き等を把握し、期待される卒業時の学生像や卒業後の継続教育の考え方を点検し続ける。

Ⅲ 教育課程・経営

評価項目（31項目）の平均点は【2.69】であり、令和元年度【2.52】から、やや上昇している。

これは、令和4年度（第一・准看護学科）・令和5年度（第二看護学科）から開始となる新カリキュラムに向けての検討や運営に向けての意見交換などを行ったことが反映していると考えられる。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で実習施設での実習の機会が減少しているが、紙上事例の充実や学内演習でのロールプレイやシミュレーターの活用など看護実践力を低下させない指導方法の工夫がみられている。

さらに、実習施設との意見交換や卒後を見据えての指導体制の連携など、様々なことに対応できる教育体制づくりが進んだ。

今後の課題・改善

- 1 新カリキュラムでの具体的な教育課程の運営において、期待される卒業生像を教員間で共通理解しながら進めていく。
- 2 新たな教育方法（オンライン授業の運営や技術指導など）について共有を進めていく。
- 3 実習施設と調整し、受け入れ態勢を整えると共に実習形態や指導体制を充実していく。

Ⅳ 教授・学習・評価過程

評価項目（17項目）の平均点は【2.70】であり、令和元年度【2.62】から、若干上昇している。

これは、令和4年度は第一看護学科・准看護学科、令和5年度は第二看護学科のカリキュラムの改正があり、各学科において、授業内容や目標達成の評価、学習への支援などについての評価検討を行い、授業改善に関する意識や見識が深まったことを反映していると考えられる。

また、新型コロナウイルス感染症によるオンライン授業対応によって、ICTへの理解や操作方法など教員の授業展開にも幅が広がった。

今後の課題・改善

- 1 新カリキュラムの授業内容の関連性や重なりの有無、また発展性へとつながっているか、定期的なカリキュラム検討会を持ち共通理解を行う。
- 2 ICT機器の操作やeテキスト、オンライン授業など授業形態の工夫や検討を行い、教員間で共有する。
- 3 授業へのシミュレーション教材を活用し、効果的な授業展開を行う。

Ⅴ 経営・管理過程

評価項目（36項目）の平均点は【2.68】であり、令和元年度【2.60】から、若干上昇している。

これは、新型コロナウイルス感染症に対処するために、組織として役割・機能が整理されたこと、本館棟の長寿命化工事を計画的に実施している

こと、W i - F i 環境の整備やモデル人形の集中更新・シミュレーターの増置などを反映していると考えられる。

今後の課題・改善

- 1 本館棟については、更なる長寿命化工事として、照明のL E D化やトイレの洋式化などを進める。
- 2 学生の憩いの場の整備が必要である。
- 3 日本学生支援機構など各種奨学金・給付金に関する情報収集及び学生に対する情報提供、申請手続きの支援の強化が必要である。
- 4 関係者への情報提供を促進するため、ホームページのより一層の充実を行う必要がある。
- 5 長期的には、看護職の需給見込みやカリキュラム改正を受けた本校の将来構想について検討する必要がある。

VI 入学

評価項目（2項目）の平均点は【2.61】であり、令和元年度【2.50】から、やや上昇している。

これは、オープンキャンパスでのP R（W e b配信含む）、ホームページでのP R、デザインを一新した学校案内パンフレットの配布、個別相談会の実施、高校訪問の実施など、入学してほしい優秀な学生の確保に力を注ぐとともに、入学試験においての選抜方法の変更等が受験生に浸透していったことを反映していると考えられる。

今後の課題・改善

- 1 入学志願者の動向を分析し、入学者選抜方法の検討及び入学後の教育の検討を継続していく必要がある。
- 2 社会状況から優秀な学生の確保が困難になってくると考えられるため、広報活動の内容や魅力ある学校への検討が必要である。

VII 卒業・就業・進学

評価項目（8項目）の平均点は【2.62】であり、令和元年度【2.57】から、若干上昇している。

これは、卒業時の就職・進学先の学生への確認と卒業後の就職先への調査及び学生アンケート調査、その結果を教員にフィードバックしていることを反映していると考えられる。

また、卒業時の到達状況を把握する方法としては、技術項目到達度録等を活用している。

今後の課題・改善

- 1 調査より得られた内容を、各学科の教育のために今後も継続し活用していく。
- 2 学生アンケート調査の結果の一部は学生に開示しているが、掲示にとどまっている。学生が関心を持ち、在宅中の学習行動に自ら反映できる

よう、効果的な方策の検討が必要である。

VIII 地域社会・国際交流

評価項目（8項目）の平均点は【2.41】であり、令和元年度【2.25】から、やや上昇している。

これは、学校から地域社会に向けて教育活動の貢献と、地域のニーズ把握、学生ボランティア活動、県内での就職を行っていることを反映していると考えられる。

しかし、帰国子女や留学生受け入れ体制整備がおこなわれていないことが、評価点微増にとどまっている要因と考える。

今後の課題・改善

- 1 地域社会については、新カリキュラムの教育内容に取り入れられており、第一・准看護学科は令和4年度から実施をはじめ、第二看護学科は令和5年度から実施予定であり、その効果が期待される。
- 2 卒業後の海外留学等における既修得単位等認定申請等の対応の検討が必要である。
- 3 国際交流については、国際的視野を広げるための検討が必要である。

IX 研究

評価項目（3項目）の平均点は【2.46】であり、令和元年度【2.04】から、大きく上昇している。

これは、学外より指導者を要請し指導体制を整えていること、教員が研究を行い発表することが、教員間に浸透し、意識が変わってきていることを反映していると考えられる。

今後の課題・改善

- 1 教員の研究活動を保証するという点では、時間的保証が弱い。勤務時間中の時間保証も含め検討が必要である。
- 2 研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地の涵養が必要である。

6 まとめ

本校の教育活動等の維持・向上を目ざし、国の「検討会報告書」に基づき、123項目について全職員が自己評価に取り組んだ。

前回点検から全てのカテゴリーについて上昇しており、これは自己点検・自己評価による前回課題について、3年間取り組んできた成果であり、今後に向けた課題も再発見することができた。

一方、教員の指導力の向上や人材活用の工夫、施設の老朽化など喫緊の課題も見えてきており、こうした課題の改善に取り組むとともに、カリキュラム改正をはじめとする看護教育の新しい取組みに対応した教育を実現し、質の高い看護職を数多く輩出できるよう職員一丸となって歩みを進めてまいりたい。